

ひょうご 県知協 NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行

兵庫県知的障害者施設協会

〒669-1353

三田市東山898-1 東山荘内

発行責任者 婦木 治

TEL (079) 568-5771

FAX (079) 568-1081

E-mail:hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp

印刷所 株式会社アカツキ印刷

平成18年10月、いよいよ障害者自立支援法が本格施行する時が来ました。昨年の9月郵政解散で非常に混乱を来した国政でしたが、10月末に支援法が成立しました。振り返ると、平成16年10月に、支援費制度が始まって1年余りの後にわが国の障害福祉施策の将来展望であるグラントデザイン案が電光石火のごとく示されました。その早業とも言うべき国の方針の提示に、我々障害福祉関係者は一種の暗示をかけられた状態に陥りました。ですから、今回の障害者自立支援法施行において障害程度区分認定や利用者負担の実態をつかんで初めて、このままでは到底利用者も事業者も路頭に迷ってしまうと緊急集会や政治力に直接交渉を始めたのです。この間ちようど2年です。国は用意周到ですから利用者当事者や事業者から苦情や課題そして改善要望があがってくるのも予測の



範囲内であったと思います。つまり、この法律施行のポイントは三障害の一元化、利用者本位のサービス体系への再編、就労支援の抜本的強化、支給決定の明確化、安定財源の確保などがあげられていますが、最終的な改革の到達点は介護保険との統合化があるのでしょうか。一旦、2年前の議論は棚上げになっていますが、国が目指している改革は水面下で老人介護関係で着々と進行していると思います。私たち障害関係は、今日まで十分とは言いませんが守られてきた分野だと思えます。介護保険事業のように、規制緩和の波の中で民間参入ありきで、まさに群雄割拠状態とは大きな開きがあります。今、平成18年10月の時点で国からの新体系移行アンケートや移行計画調査に臨む時、本当に新事業体系にどのように移行していくのが、自信をもって計画書が出していけないのが現状です。8月24日の主管課長会議資料が最終とすると、かなりの改善点も見られますが、このみなし5年間で各事業所などは本当に移行準備が出来るのが非常に危惧されます。その結果、大幅な単価減額を招

く恐れは拭い去れませんし、突然の激減措置はないのかということもあります。また、6体系にかなり強引に移行先を決めなさいということにもスムーズに移行できるのかなど、新体系の十分なるイメージがつかめないままに、何に移行するか早く決めなさいと言われても混乱を招くばかりです。もっと地に足の着いた議論が必要であります。今まで続してきたわが国の障害福祉の軌跡が正しいばかりとは言いませんが、十分な検証や課題整理もありません、財源不足を否定しながらやはり財源なのかと考えさせられるのも一方であります。

障害者自立支援法が本格施行するこのときに、後ろ向きの議論ばかりをしていてもいけないと思います。が、世界の先進地がそうだから日本もそうするべきだとか。わが国が歩んできた施設型福祉は根本から見直すべきだとか。荒っぽい議論を振り回すのではなく、本当にわが国が歩むべき障害関係福祉は過去の検証を踏まえて、こうあるべきだという理念を整理して議論をやらなさいと大きな流れの中に障害福祉は飲み込まれ

平成十八年度 総会報告

てしまうと思えます。
今、私たちは根本からの議論を重ねて将来を見据えて、禍根を残さないように精一杯の努力を重ねていかねばなりません。法律が施行されたから、何をおいても前向きにやるしかないと考えたのか、じっくり考えながらよりよい方法を模索し要望を重ねながらいくかは、重要な選択となります。

平成18年度兵庫県知的障害者施設協会総会が4月28日(金)に神戸湊川神社楠公会館において開かれた。

総会の開会に先立ち、午前中は(財)日本知的障害者福祉協会事務局長の大久保常明氏より障害者自立支援法についての中央情勢をご報告いただいた。

昼食休憩後、協会会長婦木治より挨拶があり、続いて来賓の兵庫県健康生活部部长 中瀬憲一様・神戸市保健福祉局障害福祉部部长 中西光政

様よりそれぞれご祝辞を頂戴したのち、ご来賓者全員の紹介がなされた。

次いで、平成18年度施設協会の永年勤続職員表彰が行われ、会長より感謝状が贈呈された。また、本年度新施設長の紹介、新施設の紹介が行われた。

休憩ののち、総会に入り、事務局より総会成立(出席者159名・委任状82名)が確認され、ななくさ新生園施設長の井上久芳氏が議長に選出され、議事に入った。

まず、第1号議案として、平成17年度事業報告・決算報告・監査報告の承認が為された。第2号議案では、本年度は役員改選の年にあたり交代役員が発表され、決まらなかつた部会については役員会に一任された。(別記のとおり)。つづいて、第3号

議案として平成18年度事業計画案・予算案の審議に入り、予算書に一部数字の誤りが見つかり、後日事務局より訂正文を発送することになったが、内容は原案通り承認された。第4号議案その他の件については特に審議する事項はなく議事はすべて終了し、平成18年度総会は終了した。



平成18年度 感謝状贈呈者名簿

NO.	氏名	性別	施設名	NO.	氏名	性別	施設名
【神戸地区】				【阪丹但地区】			
1	井筒 和夫	男	ワークセンターわかまつ	19	渡部 由香里	女	砂子療育園
2	富田 恒子	女	ワークセンターわかまつ	20	日下部 珠生	女	沢谷荘
3	谷上 広子	女	さわらび学園	21	前川 祥和子	女	沢谷荘
4	廣岡 健太	男	ワークセンターいわや	22	志原 まさ子	女	ささやま通園センター
5	宮本 昭子	女	よろこび荘	23	青木 恵美子	女	春日育成苑
6	西畑 久子	女	よろこび荘	24	須原 龍児	男	春日学園
7	西山 めぐみ	女	よろこび荘	25	西村 弘子	女	尼崎市立あこや学園
8	山本 恵美子	女	よろこび荘	26	下井 知代	女	みつみ学園
9	高橋 直美	女	よろこび荘	【播淡地区】			
10	小川 由利子	女	ひふみ園	27	植本 勝宏	男	三光園
11	朝日 満子	女	おかば学園	28	福田 直貴	男	若狭野荘
12	湖上 智葉	女	おかば学園	29	武知 弘志	男	赤穂精華園
13	堀田 純子	女	おかば学園	30	木南 栄子	女	播磨園
14	水上 裕希子	女	神戸市立ひまわり学園	31	藤木 廣行	男	もちの木園
【阪丹但地区】				32	尾田 弘之	男	もちの木園
15	岸上 保子	女	六甲園	33	藤澤 美鈴	女	もちの木園
16	橋野 礼子	女	六甲園	34	山本 史子	性別	もちの木園
17	辻上 悟史	男	六甲園	35	戸田 俊彦	男	姫路学園
18	西山 明美	女	砂子療育園	合計			35名

兵庫県知的障害者施設協会役員一覧

任期:平成18年4月1日~平成20年3月31日

役職	地区及び部門	新役員
会 長	会 長	婦木 治 (みつみ学園)
	神戸	井上 勝彦 (上野丘更生寮)
副 会 長	阪丹但	大野 セツ子 (ワークプラザ宝塚)
	播淡	福田 和臣 (愛心園)
	公立施設	藤本 みえ子 (神戸市立ひまわり学園)
	部会	蓬萊 和裕 (希望の郷)
部 会 長	児童通園	東井 安彦 (宝塚市立やまびこ学園)
	児童施設	内藤 義信 (いちれつ学園)
	入所更生	福井 孝行 (兵庫県社会福祉事業団)
	通所更生	山本 忠明 (グリーンホーム平成)
	入所・通所授産	古川 勝 (武庫川すずかけ作業所)
	通 勤 寮	前川 幸夫 (伊丹市立あけほの寮)
監 事	地域療育等支援	蓬萊 和裕 (希望の郷)
	福祉ホーム・グループホーム等	岡本 征 (栗山荘)
	職員部会	斎藤 義昭 (沢谷荘)
	施設代表	岡崎 充男 (神戸聖生園)
委 員 長	職員代表	太田 広孝 (猪名川園)
	研修担当	福満 久晃 (清流園)
	スポーツ	松澤 知明 (ななくさ学園)
事 務 局 長	権利擁護	小松 正和 (大地の家)
	広 報	山崎 玲輔 (ワークホームつつし)
顧 問	事 務 局 長	岡本 征 (栗山荘)
		堺 敦 (三田谷学園)
		金附 洋一郎

○は新任

平成17年度貸借対照表

平成18年3月31日現在 (単位:円)

貸借対照表表体。借方(流動資産、固定資産)と貸方(流動負債、引当金、繰越金)の金額を記載。

会計監査報告

平成17年度会計監査の結果、会計処理は確実に... 証書書類は整理良好、正確で適切なものと認めます。

平成18年4月18日

監事 高野 國昭 (印)
監事 野村 真知子 (印)

平成17年度 一般会計収支決算書

兵庫県知的障害者施設協会

平成17年4月1日~平成18年3月31日 (単位:円)

一般会計収支決算書表体。支出(事業費、分担金、事務費、繰入金)と収入(事業収入、分担金収入、事務費収入、繰入金収入)の予算・決算・備考を記載。

【福祉施設等支援者】

平成18年度 自閉症 支援者研修会 ご案内

「行動障害の理解と支援」をテーマとした研修会を開催いたします。

今回の研修会では、「行動障害の理解と支援」をテーマとさせていただきます。講師は、ワークセンターけやきの施設長 佐々木 敏宏 氏をお迎えします。

(社)けやきの郷は、自閉症支援の拠点をキーワードに教育方法の普及や、自閉症の人たちの多様な生活の場を体系的に構築され(入所施設、仮産施設、福祉工場、グループホーム)、埼玉県の発達障害者支援センターも委託されています。佐々木 敏宏 氏は約20年間、自閉症者を中心とした入所更生施設 初雁の家と働くことを追求した通所施設「ワークセンターけやき」で実践を積み重ねられ、その成果は海外や全国自閉症者施設協議会においても積極的に発表されておられます。

ぜひ、日常の支援に役立てていただければと考えております。多数のご参加をお待ち申し上げます。

(※1)認知発達療法-太田昌孝氏(東京学芸大学教授)等が太田の Stage 評価を開発し、Stage 別の治療のわらいと課題を系統的にまとめた、それに基づいた治療教育を行なっている。(参考文獻「自閉症治療の到達点」認知発達治療の実践マニュアル/太田昌孝・永井洋子編 日本文化科学社)

日時：平成18年10月11日(水) 10:00~15:00

会場：姫路市市民会館 3F中ホール(第2会議室) ※お申し込みは要りません

主催：兵庫県知的障害者施設協会、ひょうご発達障害者支援センター クローバー

参加対象：施設、作業所、グループホーム、グループホーム、ケアハウス等(施設ごとの申し込みは不要です)

会場：姫路市

プログラム (受付 9:30~)

研修会プログラム表。時間、内容、講師等を記載。

講師紹介：佐々木 敏宏 氏 (社会福祉法人「けやきの郷」理事長) ワークセンターけやき 施設長

北海道教育大学 特別教育科卒業。社会福祉士 倫理士 第2種児童福祉士3級。岡山大学(4)経済学専攻 1年を履修。昭和60年 社会福祉法人けやきの郷 「初雁の家」(60名中、48名が自閉症の利用者) 勤務
平成4年 同 「初雁の家」施設長
平成11年 同 「ワークセンターけやき」(30名中、16名が自閉症の利用者) 施設長
(平成14年 日本知的障害者施設協会 調査研究委員(平成16年度より副委員長) 個別支援科長等の担当)

会場(会場)：姫路市市民会館 3F中ホール(第2会議室)

姫路市北本町112番地 TEL (079)254-2800

① JR 姫路駅南口から北東へ約15分

② 山陽姫路駅南口から北東へ約15分

※ 駐車場はございません。申し込みできませんが、車でお越しの方は、仮の無料駐車場をご利用下さい。

仮席は各自でご用意ください(ゴミはお持ち帰り下さい)。

定額：100円

※ 定額 1,1300円 ※ おつりのないようお願いいたします。

申込窓口：10/6(金)

申し込み方法：FAX、Eメール、お電話(お申し込みは、お申し込み専用ダイヤル)

※ 必須事項は必ずお申し込み下さい。当日、受付にてお名前をお伝えください。

※ 申し込みの際に個人情報を提供いたします。当該研修会以外の目的では使用いたしません。

【申込み・問い合わせ先】

〒671-0122 姫路市北本町北館519
ひょうご発達障害者支援センター クローバー
TEL (079)254-3601 FAX (079)254-3403
e-mail:auc@cloves@nifty.com



第6回全国障害者スポーツ大会 「のじぎく兵庫大会」 開幕迫る！

開幕迫る！

第6回全国障害者スポーツ大会「のじぎく兵庫大会」の開幕が、いよいよ目前に迫ってきました。これに先立って、第61回国民体育大会「のじぎく兵庫国体」は9月30日から10月10日の会期で行われます。この兵庫国体のスローガンは「ありがとう」心から・ひょうごから」そして障害者スポーツ大会の「兵庫大会」では「はばたこう」ともに今から ひょうごから」です。これらのスローガンは、阪神・淡路大震災から不死鳥のように甦った兵庫を舞台に、全国から集う人たちが競い合い、交流を深める中で、障害のある人もない人もともに手を携え、未来に向かって力強く飛翔していくことを願っています。

「のじぎく兵庫大会」には全国から選手3,500人、役員・監督2,000人が集い、3日間の熱戦を繰り広げます。5,500人に及ぶ選手団は、47都道府県と15政令市による62チームの構成となります。われら兵庫県選手団は302人の選手と118人の役員・監督、さらに神戸市選手団では207人の選手、82人の役員・監督となり、総勢700人の

の地元選手団の予定となっております。選手の皆さんには、最後の練習・調整に励んでいただき、健闘を祈りたいと思います。

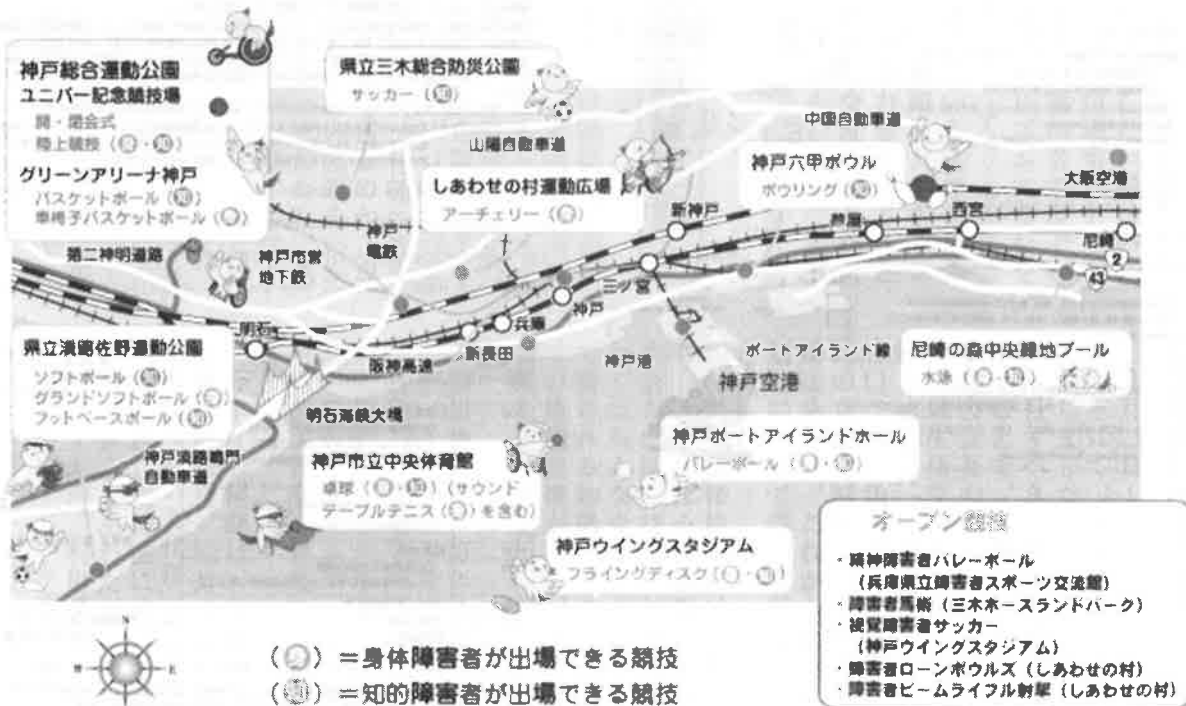
一方、大会日程においては10月14日(土)神戸総合運動公園ユニバー記念競技場での開会式に始まり、16日(月)の閉会式となります。この閉会式にはマラソンシンガーで有名な高石ともや、さらに南こうせつ、イルカ、杉田二郎が出演するファイナルコンサートが予定されています。一般席も多数用意されていますので、輝く選手達と共に感動のステージを体感されては如何でしょうか。

大会まで、あと僅かです。感動あふれる会場で、みなさんお会いしましょう。

*

のじぎく兵庫大会で選手団、役員に配られるクッキーの製造を、県下の施設や作業所が作ることにしました。また、国体の売店で売られるクッキーの製造も、今急ピッチで県下の施設・作業所で製造されています。クッキーの香りが漂っている施設もあるのではないのでしょうか。のじぎく国体及びのじぎく兵庫大会の各会場の売店の運営も、殆どの会場で、施設・作業所が運営することになっています。各会場に行かれたとき、競技はさることながら、売店で活躍する利用者にも声援を送ってください、また、販売のご協力もよろしくお願ひします。

のじぎく兵庫大会 会場マップ





平成18年度 県知的障害者施設協会
新任職員研修報告

研修委員長 福満久晃

障害者自立支援法が4月から実施され、私たち施設・事業所を取り巻く状況も大変厳しいものとなっております。もちろん利用されている方々やご家族の皆さんの戸惑いや負担の増加は予想以上に深刻で、利用を控えたり、退所される方も出ています。このような厳しい状況の中で、平成18年度の新任職員研修会は、障害者自立支援法について学ぶことも検討しましたが、法律や制度よりも、新任職員としてまず社会福祉の視点、支援者としての基本的な姿勢を身につけてもらえるよう、95名の参加者を迎えて、7月6日、尼崎市立すこやかプラザにて実施しました。

午前の部は、まず施設協会の婦木会長から挨拶と現在の私達を取り巻く現状についてお話があり、「かつてない大改革に職員は振り回される

ことなく、最も基本である、まず障害のあるご本人が、いろんなサービスを組み合わせ利用することで一番良い形の暮らし方をさせていただけるよう支援すること。長く続いた措置時代や個々の施設の経営の方針等で簡単にその形態は変わらないかもしれない、しかし確実に新しい福祉の流れはやってきている。この流れを本当の流れにしていく。皆さんに心から期待したい。」と仕事に取り組み新しい仲間たちへの熱いエールで始まりました。

また、法人の理念や自分たち事業所の事業計画、支援マニュアル等についてもきちんと目を通しておくことが必要だとも話していただきました。

第一部として、ひょうご発達障害支援センター クローバーの副センター長 亀山隆幸氏にご講演いただきました。利用者支援、特に自閉症の方々への支援について、自らのご経験をもとにわかりやすく具体的なお話いただきました。特に伝え方、環境整備等を工夫することや利用者の示す行動は彼らにとって『言葉』であるということ、新任職員にとってこれからの支援に大変参考になると感じました。

第二部として、同志社大学社会学部社会福祉学科教授 小山 隆氏をお招きし、「援助するということが

ついて「支える支えられるの関係を考える」と題してご講演をいただきました。いま参加している職員の所属している施設や事業所は異なるが、援助の共通性として援助関係があり、「する側」と「される側」がある。対等な関係といっても「される側」には遠慮がある。そのことを心に留めて、支援していくことが大切である。また施設福祉から地域福祉、在宅福祉ということについても大切なのは場所だけでなく、地域とのつながりであり、どうつながっていくかを支援しなくてはならない。孤立、孤独な地域での生活は利用者にとって幸せとはいえない。とも話されました。

障害者自立支援法において、地域での暮らしを進めていくことが挙げられています。このことを見失わないようにしながらはと改めて感じました。午後の部の最後にはグループディスカッションを行い、「明日は七夕・わたしはこんな職員になりたい」と題して短冊に願いを書いて(宣言して)もらい、グループごとで意見や悩み、情報交換を行うと共に、小山先生にアドバイスもいただきました。

一日通しての研修でしたが、参加されたみなさんにとって今後の現場でより良い支援のきっかけになれば幸いです。一緒にがんばっていきま

しょう。

〈新任職員研修を受けての感想〉

杭瀬福成園 田居 翼

今回の新任研修は3ヶ月業務を経てなので学生の時とは少し違い、より身近に感じる事ができ、現実として考え学ぶことができました。会長の開催挨拶では、障害者自立支援法について話で、障害程度区分によってサービスの減少や利用料の自己負担増加などの理由で、法施行から全国で8名の方が亡くなっていると聞きました。この様な悲しい出来事を無くす為、制度の見直しも必要であると思いますが、私たちが法をよく学び、利用者やご家族からの相談に対して一緒に考えていく姿勢も必要だと感じました。午前のI部では、自閉症の方への支援として、それぞれの特性を活かした支援が必要であるが、自閉症の概念を理解し、コミュニケーションの工夫、環境への配慮、作業の工夫などがひとつようであることを学びました。午後のII部では、援助していく上で、地域の中で、施設・病院・在宅サービス・家庭など当事者がどのサービスでも選ぶことが出来るような地域が必要なり、その地域で孤立しない様に繋がりを作るのが社会福祉であると聞きました。地域・社会の中の一人として、支援する視点が大切なのだと感じました。今回学んだ事を忘れず、日々

の支援に活かせるよう、努力していきたいと思えます。

新任職員研修会に参加して

あいあい 水元 豊

まず素直な感想を述べると、社会人として三ヶ月、この障害者福祉の分野で働いてから、こういった勉強する機会は、学生時代に比べ現実味を帯びとても有意義なものでした。

講義では自閉症ご本人発言などといった具体的な例など出して話してくださり、伝え方の工夫といったような自閉症の方との関わり方について、とても参考になりました。どんなことでも最後に「それで大丈夫、OKだよ」といった言葉かけを通し、成功の体験で終わってもらおうという関わりが印象深かったです。障害の有無に関わらず、一つの言葉で大きく気持ちが変わり、何よりもそれは、次にもつながる支援だと思いました。

話は前後するのですが、会長の開催挨拶で、障害者自立支援法の施行から全国で8名の方が亡くなっているという話を聞きました。障害者自立支援法は確かに厳しい。しかし、だからと言ってあきらめる人が出ないようにするために、そしてどんな状況でもより良い支援を提供するために、私たち自身が知識を身に付け、これから来る時代に対応できる力(支援力)を持つとうと思えました。

地区情報

播但地区

ばんだん親善運動会

6月2日、加古川市運動公園陸上競技場において、加古川市との共催、神戸新聞厚生事業団の後援を得て、第18回ばんだん親善運動会を開催しました。来賓には、加古川市長、東播磨県民局県民生活部長、神戸新聞厚生事業団姫路支部長をはじめ、各関係機関や手をつなぐ育成会等から13名の方がご来場くださり、34施設・総勢1000人の参加者で盛大に行われました。当



日は最高の曇り空?で、とても過ごしやすく、デカパン競争、はこ棒ね(棒運び競争)など、趣向を凝らした競技で盛り上がりました。競技の合間の休憩時間には「民族楽器ティード」の演奏があり、参加者の多くが芝生広場に集まってリズムに合わせて楽しく踊りました。ティードの他、例年参加して頂いている体操指導のボランティア、近畿福祉大学ボランティア等、多くの協力者を得ることができ、多くの方と交流できる機会となりました。けが人も無く、本当に楽しいひとときを過ごせました。

第一回職員研修会

7月13日、姫路市自治福祉会館において、「知的障害児・者の行動理解(感覚統合理論の視点から)」をテーマに、姫路獨協大学教授の太田篤志先生を招いて研修会を開催しました。人の持つ「感覚」についての基本的な内容から始まり、「行動の奥深くにある本当の問題は何なのか?専門家の価値は、見えない問題をいかに分析するかである」と言われ、感覚統合を含め、多くの知識、手法を持ち、知識の「引き出し」を多く持つことが重要であると言われました。後半は、事業所での事例を元にグループ討議を行い、課題解決に向けた意見交換を行いました。感覚統合の基本について勉強でき、9月に実施される第2回研修会も太田先生を招いて開催することとしています。

施設長、職員合同一泊研修会

8月23日(土)24日、サンピア姫路ゆめさきにて、第20回の一泊研修会を開催しました。今年度に入り、やはり注目すべきは障害者自立支援法というところで、近畿地区知的障害者福祉協会会長の婦木 治氏、北海道だて地域生活支援センター施設長 小林 繁市氏、近畿福祉大学助教 谷口 泰司氏を講師に迎え、それぞれの立場、経験から、障害者自立支援法を元に、これから取り組むべき課題等について詳しく解説していただきました。

初日の研修終了後は、懇親会を持ち、その後は小林施設長を囲んだ二次会を部屋で持ち、お酒も入り、ざつぱらんな会となりました。講演で得られる知識だけでなく、施設間での情報交換が出来、大変意義深い研修となりました。

播但地区は、毎年4月に総会を開催し「スポーツ事業」「研修事業(一泊研修会)」「文化事業」に役割分担し、職員のスキルアップ、職員、利用者間の親睦を目指して活動してきました。

今年度の後期は、9月12日に第二回職員研修会、12月4日には「ばんだんゆうあい文化祭」を開催します。障害者自立支援法に伴い、職員にも余裕が無く、あわただしい日々が続いていますが、利用者へのよりよい支援を目指すと、これを常に持ち、幅広くすすめていきたいと思えます。

(愛心園 中川 義之)

阪丹但地区

阪丹但地区からの報告

今回、職員部会の動きを中心に報告してほしいとの依頼を受け、今年より新たに職員代表となった我々としては、どの様な形で報告したらいいのか戸惑いましたが、三名で相談した結果、本年度の阪丹但地区知的障害者施設協会の活動を中心として、他地区との交流内容を加えた内容を報告することにいたします。

まず、研修関係ですが、6月27日(火)に、三田市で施設長研修、7月18日(火)に阪神福祉事業団との共催で、新任職員基礎講座「自閉症・発達障害について」を行いました。

今後の予定としましては、9月に事務担当者研修会(三田市)、12月に、支援員研修会「仮題 障害者自立支援法になつてみて」(三田市)

1月に再度、阪神福祉事業団との共催で、中堅職員を対象とした「自閉症・発達障害について」の研修会。

2月に給食担当者研修会「仮題 障害者自立支援法スタート後の給食業務の現状と課題」(三田市) 3月に、管理職研修会(三田市)

以上を計画しております。

一応のテーマが挙がっている研修会や、まだ未定の研修会もあります。が、やはり「障害者自立支援法」関係中心のテーマになり、地区全体でこの新しい波にのつていこうと考えています。

次にスポーツ関係ですが、本年度は10月にのじぎく国体、のじぎく兵庫大会が行われるので、それらに協

力することが中心となります。

最後に文化関係ですが、例年であれば、10月に「がんばる・カーにパル」と題した音楽活動を中心とした、利用者交流の場がありました。が、今年度は、のじぎく国体、のじぎく兵庫大会への協力をメインにする為、中止となり、来年度以降、さらに充実したものとして開催したいと思っています。

他地区との交流につきましては、7月7日(金)、三田市において、婦木会長、岡本事務局長にも同席していただき、播但、神戸、阪丹但地区の職員代表が集まり、第一回職員部会を開催しました。

各地区の活動を報告し合い、婦木会長のアドバイスをいただき、各地区の研修会に参加人数の余裕があれば、相互に参加するようにして研鑽を深めてはどうか、スポーツや文化面の行事についても同様に交流を深めていく機会をもとうという話でまとまりました。

他地区の代表者との顔合わせも済み、それぞれの地区の積極的な活動を理解しあい、今後の阪丹但地区の活動に生かせるよう、気持ちを新たにしました。

(職員代表 沢谷荘 井関寿文)

神戸地区

職員部会交流センター

神戸市知的障害者施設連盟職員部会の年間事業としては大きく分けて3つあり、職員研修会と利用者のレ

クレーション活動 総会という形で職員部会が中心とします。職員研修会は日帰り研修と一泊研修に加えて看護師を中心とする連絡会と看護関連の研修を行っています。施設利用者のレクレーションスポーツは、フットベースボールとボウリングの2回実施し、本人部会の前身としての取り組みで利用者の茶話会を1回企画しています。これに年度始めと年度末に職員部会の総会を開催しています。

また、これに加えて平成15年度からは第6回全国障害者スポーツ大会ののじぎく兵庫大会に向けて、神戸選手団のサポートに取り組んでいます。この活動の軸は3つあります。

1つ目は移送支援です。市内で活動されている障害者スポーツ団体を市知連加盟施設の所有しているマイクロスポート車を利用して、なるべく運転手付きで神戸市内外の試合会場まで送迎の連絡調整等の段取りをしています。球技などの団体競技では競技人口がまだまだ少ない為、交流試合をするのも大変苦労があるようです。

しかし、18年度はのじぎく兵庫大会の機運も高まりを見せ、サッカーチームやソフトボールチーム、フットベースボールチームが利用して下さり、姫路市、三木市、奈良県、岡山県、愛知県まで遠征されています。障害者スポーツ団体の一助になればと思います。

2つ目はフットベースボールチームの育成と育成です。市内施設に向け広く募集をかけ、レクレーションスポーツとしてフットベースボール大会を15年と16年の2回開催し、その中から主力メンバーの候補者探しを行いました。また、チームの指導者にはソフトボールの指導経験者に

チーム監督の任を受けて頂き、職員部会スポーツ委員長自らもサッカー部の経験を生かしコーチに就任しました。

17年には岡山県で開催された第5回全国障害者スポーツ大会に出場しましたが練習の甲斐なく一回戦敗退をしてしまいました。これを期に選手の手を勧誘を手広く行い、チーム練習も毎週実施し、練習内容も工夫するなどして大きくチーム改造をしています。加えて、練習日毎の区を超えての選手の送迎も監督とコーチ、関係施設職員等で手分けして行っています。最近は大大会を目前に控えて何時にも増して練習に熱がこもっているようです。

3つ目はボウリング選手の開拓と育成です。これもまた15年から毎年レクレーションスポーツ大会としてボウリング大会を企画して、施設利用者の中から選手候補をピックアップすると共に財団法人神戸市障害者スポーツ協会の協力を仰ぎ、在宅の方の情報も得て選手候補者を選定いたしました。ボウリングの監督には小生が就きました。昨年の岡山大会では神戸選手団として4名の選手を送り込んで恵まれて内2名が受賞いたしました。前大会から引き続き通年練習に励み、選手は皆成長を見せ、昨年度より一回り大きく見えるようになり、今年度は5名の選手で本大会に臨みます。

最後になりましたが、職員部会の活動を通して他施設間の職員同士、利用者同士、職員と利用者の交流と情報交換が図られています。今後ともご理解を賜り、職員部会の活動にますますご参加ください。よろしくお願いいたします。

(上野丘更生寮 東慶一)

新施設訪問
 社会福祉法人 ヤマシキ福祉会
 「養弾(いじむけ)SEI」
 入所更生施設(旧体系)

兵庫県の北、但馬地方に位置し平成の大合併で県下最初に誕生した養父市は、現在では人口約二万九千人を切り、高齢化率も県平均を大幅に上回る30%を超えています。

そんな養父市のほぼ中央に位置し、9号線から琴弾トンネルを抜けるとほぼ正面に茶色い外壁の養蚕農家の屋根の「ばつき」(養蚕農家は、自宅3階に蚕を飼っていて、夏の季節の空気抜きの様式)を模した建物が見え、道路を挟んで反対側に10数件の新興住宅があります。が山の中です。

この琴弾の丘建設に至るには、保護者、法人の声を地元養父市、兵庫県、厚生労働省に上げて行った結果、奇しくも今回の自立支援法の元になったグラントデザインが発表される前日の起工式、という運命的な経緯を感じます。2カ年の工事期間を経て本年4月に開所となりました。

建物は管理棟、デイサービス棟、居住棟に大きく分かれ居住棟は利用者9名対応のユニットが6棟、3名対応ユニットが1棟計7棟で居住棟

を形成し、独立した建物として自立生活訓練棟4名対応があり、その他230㎡の地域交流室、デイサービス棟、事務室、会議室の管理棟に分かれています。

ユニットでの生活は、広さ9㎡の個室仕様で備え付けのベッド、クローゼットにテレビ、ラジカセ等を持ち込み、女性はぬいぐるみ等で部屋を飾っていました。

朝夕の食事はメイン厨房で調理された料理を各ユニットまで運び、盛り付け、配膳を行い提供するスタイルをとり、入浴も各ユニット単位での提供できるように整備されています。

この琴弾の丘の利用者は但馬管内を中心に男子27名、女子22名の利用者(平成18年7月現在)で、平均年齢43歳です。日中活動として琴弾の丘作業室、屋外作業、おおよ作業場、たんぼほの家作業場での作業活動、

野菜・花木の農家、野菜集出荷場、美容院等での実習に出かけていきます。また、週一回ですがメンバー交代で6名ほどの1チームを組み野菜農家へ作業に出かけています。出来るだけ職住分離を目指した取り組みを行っていききたい、それをテーマに

日中活動が組み立てられていました。利用者の普段の生活もより家庭に

近い状況をめざし、行事等も各ユニット単位での計画とし、調理実習も取り入れ厨房の食事を取らずに自分たちで作って食べることも計画されていました。

しかし、課題も多く、ユニット別の別棟での建物構造ですから、人件費、光熱費等経費が多くかかり、日中活動を別の場所でもっているため経費増・・・より家庭に近い生活を支えていくのは金がかか

るものだと実感されているようで、冬場の暖房費を含めたランニングコスト、少し心配になってきました。また、施設サービスが変わる中で、どの事業体系をとるか、デイサービス事業をどの分類に行くかなどなど・・・

スタート時の苦労を、正垣施設長の背中から感じました。

所在地 兵庫県養父市大屋町

宮垣22467

電話 079-663-8510

開設 平成18年4月1日

施設長 正垣 充正

定員 50名

職員数 支援員 21名

メール kotobiki-oka@fureai-nettv



編集後記

日銭稼ぎの通所施設。先人達が積上げて来た思想も理念も吹っ飛んだのか。

こんな時こそ、私達はしっかりと自分達の職命を再確認していかねば、と思う。

紙面の都合で「日誌抄」が掲載できませんでした。お詫びいたします。

広報担当 山崎玲輔